

吹田・摂津版

発行所

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

〒113-0034

東京都文京区湯島2-4-4

平和と労働センター・全労連会館

自由と平和のために

吹田・摂津支部

〒564-0023

吹田市日の出町1-20 松本方

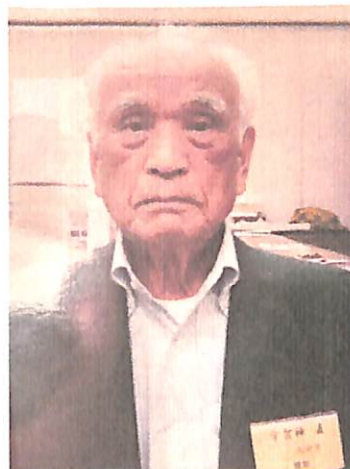
TEL 06-6381-7138 FAX 06-6382-3413



吹田・摂津版

No. 51

卒の思い



吹田市千里丘 宇賀神 直

「こんなふうに闘える女性になりたい」と石川たえさんはその思いを書いています。

私は卒の思いを書いてみたいと思います。

今年には民主的弁護士会の団体である自由法曹団創立一〇〇周年にあたり文集の発行、団員の集いなどが取り組まれていきます。さて、その創立の経緯ですが、一九二二年八月神戸の川崎造船など三社の労働者二万五千人がストライキに突入しました。政府は軍隊、警察を動員して弾圧をかけ四三〇人の争議団幹部を検挙しました。これに対し東京の若手弁護士十四

名が現地に入り調査、抗議、演説などの活動を行ったのです。そして東京に戻りこれらの弾圧などに対処するため自由法曹団を結成するに至ったのです。

そして大正デモクラシーが終わり治安維持法の時代に入り、昭和の世に移ると政府による大弾圧がおり、自由法曹団の弁護士はその弁護活動を行いました。それに対しても治安維持法違反の名で裁判にかけられ有罪判決となり弁護士資格を失う事になったのです。

話はとびまして一九四五年八月ポツダム宣言受諾、敗戦、第二次世界大戦が終わり、平和と民主主義、人権の世に入る事になり自由法曹団はこの年の十一月一〇日に東京会館で再建の総会を行い一五〇名ほどの弁護士が集まり活動を再開したので。

そして特高警察の責任追及、司法の民

主化などの活動を行い、その後松川事件などの弁護活動、裁判闘争を展開、更に時代が移り安保闘争、公害、労災、過労死などに取り組み、その闘争は深く、広くなっています。私はこの自由法曹団本部幹事長、団長として大阪、東京間を往復し活動した頃を思い出します。

さて、治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟と私との関係ですが松本洋一郎会長の話によると一九八二年三月に入会したとの事です。私は毎年二月に行われる多喜三祭には参加するようにしていますが、活動はしていませんでした。最近では吹田・摂津支部の集いには参加しております。今、治安同盟はその仲間を増やし活動の幅を広げていく事が今までに増して大切です。そして自由法曹団大阪支部との交流も必要と思います。

再び戦争と暗黒の政治を許さないためにもイタリア、スペイン、カナダ、アメリカ、チリの国々が行った犠牲者の補償を実現しましょう。

(1982年3月入会)

自由と平和をめざした人々
(吹田・摂津)

井戸貞三物語(12)

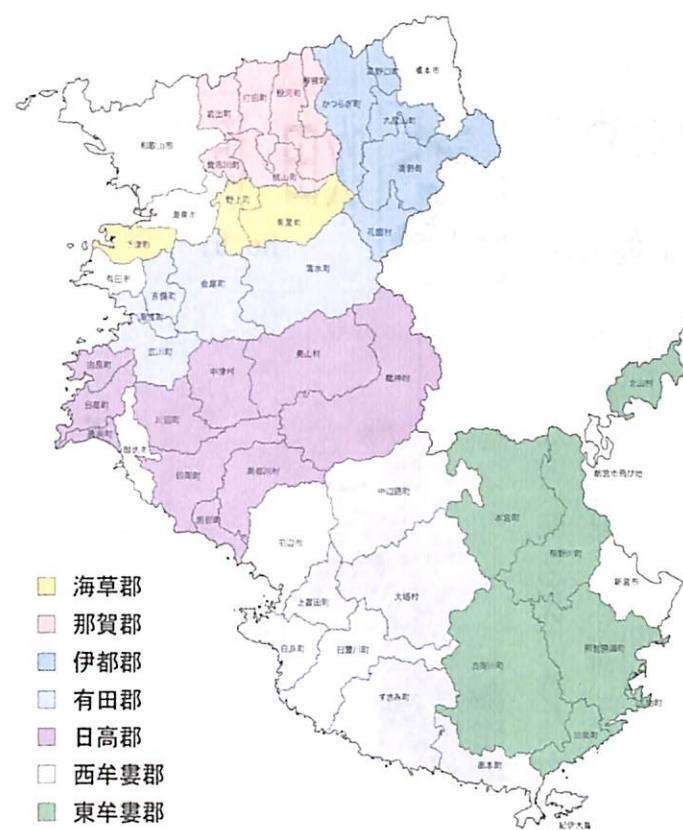
井戸が行く以前の和歌山の闘い

柏木 功(元吹田市高城町在住)

和歌山は広い

和歌山県は広い。私の現職時でも新宮あたりから県庁へ出張する場合は1泊すると聞きました。全府の会

議が平日の夜に開催できる大阪とはスケールが違います。まして、交通や通信の発達していない、今から90年前の和歌山では県内の交流の困難さは想像を絶する



- 海草郡
- 那賀郡
- 伊都郡
- 有田郡
- 日高郡
- 西牟婁郡
- 東牟婁郡

ものがあります。

1930年2月事件で30数名検挙

1930年、田中清玄が委員長となった日本共産党は和歌浦で拡大中央委員会を開催。2月、兵庫、大阪を中心に武装宣伝隊による工場や兵舎への一斉ピラ撒き行動を組織しました。全協や学生社会科学研究会の若者達が行動隊員となりました。和歌山では30数名が検挙されました。起訴は2人。残った者たちによって、共産党や全協の再建にとりくまれました。

評議会大阪一般労組の和歌山の分会をもとに、和歌山労働者組合が組織され、上部団体として組合同盟に

加盟しました。この和歌山労働組合を全協の組合にしようとする動きがありましたが、全協への合流に賛成しない人たちが和労は活動を続けました。

全協組織和歌山の結成

30年12月に、全協組織和歌山支部が結成されました。責任者の林三郎が最年長で23歳。新庄強、岸場アサ子、明石精市、宮本正男の5名。最年少の宮本は17歳。

31年になって和歌山染工北島工場でストライキが起こります。主導権は和労やそれと連携した全農県連(総本部派)がにぎり、「全協センイのスパトラを葬れ」のピラも貼られます。スパトラとはスパイ・ウル

トラ(極左)の意で「ダラ幹」(墮落幹部の意)にたいうる対抗語です。

全熊野労働組合協議会

一方、和歌山県南部(紀

南地方)では、1930年6月、古座町で全熊野労働組合協議会(全熊)が結成されています。太地労働組合が中心となり古座川木労働同志会が参加、新宮共愛会

田辺貝鉦争議

からは個人参加がありました。7月、田辺貝鉦工組合、11月勝浦那智自由労働組合が結成と共に全熊に参加しました。

大阪のモップル
戦前大阪の弾圧犠牲者救援運動
A5版176頁 柏木 功/著・発行
大阪での解放運動犠牲者救援会や、日本赤色救援会大阪地方委員会の活動を当時のニュースや官憲記録をもとに、その壊滅までを描く。

大阪のモップル
戦前大阪の弾圧犠牲者救援運動
ISBN 4-875-01-000-0
定価500円送料180円 申込み072-779-3019 (F兼) 柏木まで

31年5月、田辺貝鉦争議では全熊の指導の下、はげしい闘いとなり、デモが工場主宅を襲ったことで11名検挙されます。勝浦から周参見まで40kmを踏破して支援に駆けつけた者も検束送還されました。犠牲者を出して敗北したものの紀南地方の労働組合の総力を結集した闘いとなりました。

指導者の死

全熊常任書記の森岡嘉彦はいったん三重県に逃れた

ものの、検挙が始まるやぶたたび新宮に潜入し弾圧反対のピラを貼ります。新宮で検挙され和歌山送りとなります。31年8月、未決のまま保釈となりますが、拷問のため歩くこともできない状態でした。起訴猶予となったのちも日置の争議支援にかけ風邪から肺炎となり絶命します。全熊葬が行われ「斗争の真只中に立ちて桜の花の如く散れ：死して山宣となれ」などの彼のノートからの言葉が墓碑に刻まれます。

(敬称略 続)

90年前の今月
1931年9月25日
小堀井津 外務大臣
露中から露露に出る

吹田市日の出町
松本洋一郎

1945年10月の演説

会で詩を朗読した阪本一房（通称・いっぽう）と私とのふれあいを紹介します。1971年、革新府市政誕生の選挙で私の市議初立候補の選挙カー上部にカラーのアクリル板？で氏名を目立つように大きく描いたのが阪本一房でした。南高浜町（神境町・

しんけいちょうに住み、「明るい革新吹田市政をつくる会」の5分野(学者・医師・弁護士・宗教家・文化人)の主に文化分野で活動、榎原市長誕生に貢献した1人です。その後「かるくち」「出口座」

というB6版の小冊子を発行、吹田市立文化会館メイシアターに小ホールを設置するよう要望し、舞台設計など実現に努力しました。また、私たちと一緒に桂米朝事務所の協力で高浜神社で「吹田寄席」を開催するなど庶民文化の普及に力を注ぎました。笑いを大切にしたらやさしい人柄は忘れられません。

2つの
“武勇伝”

〈コメの強権供出反対〉

戦後、政府は成年男子の1日の基準配給量をコメ2合1勺(300グラム)に押さえたため空腹が避けられず、ヤミ米などが

横行。農家には強制的に供出を命じました。横田甚太郎らが農民運動を再建、46年3月に日農吹田支部の約100人が強権供出反対を要求、トラック3台にコメを積んで知事公舎に押しかけ、3日間座り込みました。自主供出で手元の備蓄米に余裕を持たず戦術で、府知事に「供出協力感謝状」と酒10本、農業倉庫を立てることを約束させ農民側は勝利しました。

〈警官の「ヤミ塩」

横流し摘発

11月には吹田警察署の一警官が大量のヤミ塩を横流した事実をつかんだ。共産党吹田細胞が47俵を摘発、警察署(昭和町)の玄関先に積み上げ責任を迫りました。松谷好一

(後の国鉄労働組合吹田支部執行委員長)は「その時、横田さんが吹田警察署の前で演説しているのを聞いたのが私の最初の出会いである」と述べています。署長は部下の不正をわび、摘発された塩の保管場所となった吹一小学校では共産党主催で市民たちの「塩まつり」が開催され喜ばれたといいます。

(続) 敬称略

←『朝日新聞』1946（昭和21）年11月10日付

吹田署員が鹽の闇

共産黨が九十
表摘發

[illegible]